

活動タイトル	のどの子どもたちにCAP（子どもへの暴力防止）プログラムを	団体名	CAPのと			
<p>1年間の活動（アウトプット）の目標（事業全体）</p> <p>【周知活動】 ①CAP公開ワークを行政関係・福祉関係者・医療従事者と分け各3回を実施する。日程をあらかじめ設定することにより参加者の予定が付きやすくする。広告するだけでなく一人ひとりに直接参加を求める。 ②CAP上部団体J-CAPTAトレーニングディレクター木村里美氏を講師に迎え、専門職（今回は小児科医）を対象にCAPプログラムを理解してもらうため講演会を実施。広報として小児科医会のブース出展にて周知する。上部団体J-CAPTAには専門部会の設置を依頼する。受講者にはCAP導入のため学校への橋渡しをお願いする。 【人材育成】 CAP養成講座受講料交通費補助。周知活動のワークショップ参加者にワークショップ参加時間開催予定地日程、補助の存在を必ず伝え受講を保す</p>	<p>■活動報告</p>	<p>■1年間の目標に対する達成状況</p>	<p>公開ワークの様子</p>	<p>■活動風景</p> 		
<p>【周知活動】 ①公開ワークの実施 七尾市民生委員20名、羽咋市地域福祉推進チーム100名、七尾市学童担当者60名、志賀町学童支援員20名、中能登教育委員会74名、志賀町教育委員会60名、合計334名の子ども関連に専門性の高い新規受講者に対して、公開ワークを実施した。 ②4月19～21日「日本小児科学会」にブース出展し、CAPについて周知活動を行い、211名の小児科医に紹介することができた。 J-CAPTA太田美津子トレーナーを講師に迎え、七尾市保育士会80名の保育士にCAPを理解してもらうことができた。 【人材育成】 4名にCAPスペシャリスト養成講座を受講してもらうことができた。</p>	<p>【周知活動】 公開ワークを専門性の高い方々にCAPについて理解を深めることができた。昨年度ワーク新規参加者140名に対して、→助成金による公開ワーク6回で334名の新規参加を得ることができた。（238%増） 講演会参加80名を含めると414名（295%増）、さらに、小児科学会周知活動211名を含めると625名（446%増）であった。 【人材育成】 当初の目標は、「CAP養成講座」に6名の参加を予定でしたが、4名の地域の多職種の方に講座を受講してもらい、CAPのとのマンパワーが増えた。</p>	<p>4月19～21日日本小児科学会ブース出展</p> 				
<p>【周知活動】 ①公開ワークを例年以上に行うことができた。いままで実施したことのない市町、子ども関連機関にCAPを知ってもらう機会を得ることができた。また、多くのワークを実施する機会ができたことで当グループ会員がCAPプログラムを届ける経験をする機会ができ、スキルアップにつながった。公開ワークを教育委員会に行ったことで来年度小学校にCAPプログラムを実施する予算を計上してもらえることとなった。 ②日本小児科医会にてCAPを211名もの小児科医に周知することができた。医療の面から行政や学校に子どもの虐待防止を話してもらえる機会が今後増えることが期待できる。 （医療から行政、学校へのアプローチはとても効果的であり、実際に当地域にてCAPプログラムを小学校に導入した実績がある） 【人材育成】 4名の「CAPスペシャリスト養成講座」に助成することができた。4名の受講者は、様々な職業（保健師、看護師、行政職員、NPO法人職員）に就いており、今後の人脈の広がりが期待できる。</p>	<p>●子どもへの関りが強く専門性の高い人々（教職員、保育士、行政関係者、保健師、民生委員、学童支援者、小児科医師）に周知活動を行ったことにより、新たな人脈とつながることが期待できる。 ●今回の大人ワーク実施先選定にあたり、CAPのとのグループメンバーの人脈が広がったことにより、新たな場所でのCAPワークにつなげることができた。 ●CAPプログラム（大人ワーク）を行政、民間団体にて人権教育の研修会プログラムとして提供することができる。今後のCAP支援者を増やす取り組みに大きな役割になると考えられる。今後は、企業・行政に「権利擁護」「人権教育」の研修会をさせてもらいCAPの支援者理解者を増やすことに繋げていきたい。 また、J-CAPTA（CAPプログラムトレーニングセンター）トレーナーを講師にした講演会を実施することにより、CAPのとのメンバーのスキルアップにつなげることができた。</p>	<p>■実施した人材育成策</p> <p>●CAPのとで活躍しているメンバーの人脈により開催した公開ワークにより、能登地区の学校へのCAPプログラム導入の可能性ができたことから、本地区の保育所、小学校、中学校、高校と関係性を深めながら、どこにアプローチすると導入に近道であるか等を検討する中で、活動の拡大につなげられる人材を育成した。 ●「CAPスペシャリスト養成講座」では、能登地域で様々な職種で活躍している4名の受講により、今後、CAPプログラムを届けるメンバーとして研修を受け、スペシャリストとして活躍してもらえることが期待できる。これらにより、活動基盤を盤石にすることにより、今後は多数の依頼を受け、断ることなく活動できると思われる。 ●現在のメンバーを対象にCAPワークに実際に参加し、OJT等を行うことにより、講師として活動できるメンバーを育成（1名）した。また、既に講師として活躍しているメンバーも、ワーク回数を積み重ねることでスキルアップにつなげることができた。</p>	<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>	<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>CAPを知る人をふやすこと</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■受益者の変化（効果測定結果等）</p>			<p>●公開ワーク参加者アンケートのなかで「CAPを聞いたことがありますか」という質問に対して、「初めて知った」と回答した人が、334名増えた。（昨年度比238%） また、本助成事業にて実施した志賀町教育委員会向けワークの実績が認められ、志賀町にCAPワークを実施するための予算がつき、継続してワークを届けることができるようになった。 ●今回の公開ワークの直接的な要因ではないかもしれないが、行政機関に交渉し、子どもたちにワークを届けることができることになった。今後は、輪島市1月、能登町11月6日、穴水町10月19日（各校の4年生）に実施する予定である。</p>			